

令和6年度 第2回 高松圏域自立支援協議会 発達障害部会 議事録

日付	令和6年9月27日(金)
時間	10:00~11:30
開催会場	かがわ総合リハビリテーションセンター AV会議室
参加機関等	アフターケア事業所わかっか(2)、自立生活支援センターたかまつ(1)、香川県高校教育課(1)、高松市(1)、香川こだま学園(1)、高松市障がい者基幹相談支援センター中核拠点(1)、アルプスカがわ(3) 計10名

議題1：前回部会からのふりかえり

議事	<ul style="list-style-type: none"> ・高卒者や高校中退者に情報発信が届いていないことがわかった。その時につながらなくても、「そういえばあの時、こういうことを言われたな」と思い出しもらえるよう、情報発信できたらと考える。 ・受動タイプは受診や手帳取得の提案に応じるが、そうでなければ反発する。福祉サービスにつなげるのが解決にはならない。 ・今回は、アフターケア事業所わかっかに意見をいただく。そのうえで、運営委員会で話し合い、高松市のサポート事業や発達障害者支援センターなどに働きかけるのは協議会の役割である。
今後の動き	運営委員会で話し合ったことを2月28日の部会で共有する。

議題2：情報提供

議事	<p>○アフターケア事業所わかっかより情報提供(別紙資料)</p> <p>○質疑応答</p> <p>Q：年間の新規登録はどれぐらいか。つながるルートは。</p> <p>A：・児童養護施設退所者が毎年10名程度。ルートは、児童養護施設(県内外)、SSW等からつながることもあれば、本人からの連絡もある。本人からの連絡は年間1~2名だったが、今年はずでに3~4名。自分で調べて「食べるものがなくて困っています」と連絡がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業開始7年間で延べ200名の登録者。支援の必要性を鑑みて年間120名に実際の関わりをしている。年1回や月1回の連絡をニーズとしている若者もあり、ニーズにグラデーションがある。 ・作ったお弁当やお米などを届けて会話を続け、来所につなげている。 ・県全体が支援対象だが、やはり高松市にニーズが多く、丸亀から高松に事業所を移転した。 <p>Q：保護者とつながれることはあるか。</p> <p>A：1割程度。保護者対応と若者対応はスタッフを別にして対応している。保護者に頼るなどとは言えない。頼りたい気持ちはあるものの傷つけられる</p>
----	--

	<p>ので、よい距離感が必要。「どうしたいか、どうありたいか、介入することはできるよ」と選択肢を与え、本人に委ねている。はた目から見て、実家から離れたほうが良いと思うが、家族という憧れがあり離れられない若者もいる。</p> <p>Q：支援学校に行っていないが障害がある人はいるか。</p> <p>A：いる。手帳を持っていれば選択肢が増えると考える。</p> <p>Q：一般校の手帳未取得で支援を受けたことがない若者はつながりにくい。タイミングが難しい。生活保護や自己破産等目的があればつながりやすいが、障害福祉につながるのは難しい。つながれたという感覚はあるか。</p> <p>A：障害福祉につながるのは抵抗があり、つながらない。「なんでそんなところ行かないかんの？」と言う。妊娠して出産をすることになれば、それをきっかけに母子保健等とつながれることもある。</p> <p>Q：自分で働いて生活していくという気持ちにはなかなかならないのか。</p> <p>A：・ならない。何とか生きている。友人のネットワークがすごい。お金がなく、1か月友人宅を渡り歩いた人もいる。一方、友人がいてもすぐに関係を切って、人間関係を築けない人もいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職業センターに同行することもあるが、なかなかつながらない。手取り足取りサポートしてくれないとうまくいかない。 ・「食べ物を届けることはできるけど、お金はどうしようもない。電気が止まっても知らんよ。」と言うとバイトを始めた若者もいる。 <p>Q：男女で支援の差はあるか。</p> <p>A：・女性は保護してもらえるが男性は保護してもらえない。つながりにくい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・里親家庭はつながりにくい。本人がつながろうとしても「家がある」と里親が止める。里親の会でわっかっかが話をして、「うちの子は大丈夫」と響いていない。 <p>Q：お金の使い方を練習してほしいと考える。特性がある学生向けに高校生ガイドブックに生活に必要な費目を入れた。いかがか。</p> <p>A：出前講座で、部屋の探し方、仕事の辞め方、生きるために何のお金が必要か伝えているが、理解できる子は理解できる。退所後にやっと理解できる子もいる。退所前、退所後のどちらでもその学びは必要。</p>
<p>今後の動き</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・運営委員会において、相談先の情報を提示したいという話になったが、それだけでは有効ではないことがわかった。実際に困窮して自立生活支援センターたかまつや高松市に相談に行くので、情報発信だけでは難しい。今後、運営委員会で検討する。自立支援協議会でできないことは行政に働きかける。 ・情報提供の内容は整理して、全体会で報告する。